

日 時：2017年6月10日（土）13時～17時30分

場 所：東京外国語大学 本郷サテライト 401会議室

出席者：渥美、遠藤、五十嵐、石戸、岩下、帯谷、小林、酒井、末近、鈴木（絢）、鈴木（恵）、中山、錦田、福田、ヘーゼルハウス、増原、松尾、松永、丸山、山尾、横田、計23名、特任研究員・押尾

#### 議事次第

13:00～13:20 第二回総括班会議

酒井領域代表から、以下の報告事項の説明があった。

① 若手育成会議の今年度開催について

- 本新領域研究では、「グローバル関係学」を志向する若手の研究者の育成に力を入れる。そのために、若手育成委員会（石戸、鈴木絢）が総括班に設置されている。
- 計画では、二年目から若手研究者の報告会を公募にて実施することとしているため、今年度中に実施する。シンガポール大学との国際会議開催後、2018年1-2月頃の実施が妥当であろう。
- 特に、H30年度9月には次回の公募研究の募集が行われるので、今年度採択された公募研究者の中間報告を兼ねて若手研究者報告会を行い、後身への研究紹介へとしたい。

② 計画研究横断プロジェクトの新規提案について

- 計画研究横断的プロジェクトとして、「グローバル危機における他者認識 perception 研究プロジェクト（仮称）」を立ち上げることにする。
- 同プロジェクトの趣旨：国際関係論では安全保障のジレンマなど外交アクター間の「誤認」が紛争を生む要因となるとの議論があるが、そうした視点はミクロレヴェール（文化人類学、文学、心理学）、メソレヴェール（社会学）においてもみられる。特に相互認識の手段である言語・非言語によるコミュニケーションが、そのツールの多様化によってますます複雑化し、情報選択の自由度を高め、結果「誤認」や「恣意的解釈」の幅を広げているともいえる。こうした視点から、現在のポピュリズム、排外主義や宗派主義のみならず、「恐怖の壁」が突然崩れたという「アラブの春」型集合行為の頻発、また他者に対する脅威視を政治化する securitisation の議論など、幅広く「対立」「衝突」「排除」「集団化」といった現象を取り上げ分析することができる。
- 計画間横断プロジェクトに参加する人、全くしない人という差が出てしまうと良くないので、自発的な参加を促すことにする。
- 以上の代表者からの報告に対して、「他者認識だけでは狭いし、一方的になるので関係的概念ではないので、プロジェクト名は再考の余地がある」とのコメントが松永計画研究 A01 代表より、出された。これに対して、領域代表者からは、プロジェクト名称、参加者については、皆さんからアイデアを出していただきたい旨の発言があった。

以上の報告のあと、引き続き第2回全体研究会を実施した。そこでは帯谷分担者、小林分担者（ともに B01）、鈴木絢分担者（A02）、丸山分担者（B03）、錦田分担者（A01）による研究報告が行われた。